保護者各位

平成２９年６月２６日
棚　尾　保　育　園
園長　杉澤　美藤江

７月の目標

０歳児・・一人ひとりの体調に合わせて、十分な水分補給や休息をとり健康に過ごせるようにする。
・・水遊びや沐浴をし、快適に過ごせるようにする。
１歳児・・一人ひとりの健康状態に合わせて、暑い夏をゆったりと快適に過ごせるようにする。
・・保育士と一緒に水に触れ、気持ち良さを感じる。
２歳児・・活動と休息のバランスをとり、夏を健康に過ごす。
・・保育士や友達と一緒に水の感触を楽しむ。
３歳児・・夏の生活の仕方や手順を知り、身の回りのことを自分でしようとする。
・・水や砂に親しみ感触を味わいながら保育士や友達と一緒に夏の遊びを楽しむ。
４歳児・・夏の生活の仕方を知り、自分でできることは自分でする。
・・友達や保育士と一緒に、水、砂、泥等に親しみ夏ならではの遊びを楽しむ。
５歳児・・自分なりのめあてを持っていろいろな夏の遊びを楽しむ。
・・夏の自然事象や身近な生き物、栽培物の生長に興味関心を持ち、進んで世話をしたり収穫を楽しんだりする。

『通用門の施錠について』

送り迎えを通用門（保護者駐車場横）からされる保護者の方へ
送り迎えの際、門は必ず閉めてください。駐車場に車が入ったからすぐに来るだろうと、次の人のために門を閉めない人がいます。次の人は**「門は閉めなくてもいいんだ」**と思ってしまいます。その隙に子どもが出てしまう可能性もあります。事故が起きてからでは遅いので安全の為、必ず門は閉めてください。ご理解の上ご協力をよろしくお願いします。
なお**正門も開けたら必ず閉めてください。**

『登降園の駐車場利用について』

降園時車でお迎えに来た人が子どもさんと遊んで帰り、なかなか駐車場が空かず、道路に駐車する車が並んでしまい近所の方が迷惑をしているとの情報が入りました。**車で送り迎えをされる方は、立ち話や遊んで帰る等のことは止めていただき速やかに駐車場を空けるようお願いします。**
また、お迎えの時間が４時を過ぎて門を出られる方が時々あります。
４時５分前には担任とさよならができるようお迎えをお願いします。
遅くなる場合は、必ず園に連絡を入れてください。

虫刺され予防について

蚊など虫が発生する時期です。乳児組・幼児組の１階の保育室には吊り下げタイプの虫除けを取り付けて虫が寄ってこない対策をしています。

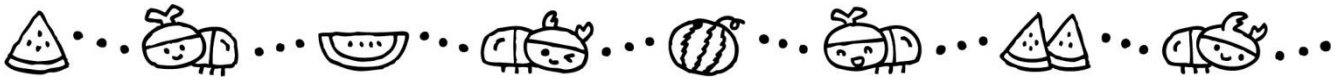
≪虫に刺された時の対策について≫

散歩や保育園で虫に刺された時は、患部を水で洗いムヒベビーを塗ります。アレルギーなどで身体に合わない方は、担任までお申し出ください。（全園児）患部をかきむしって「とびひ」になる可能性もあります。

ご家庭でも手洗いをしっかりすること、皮膚を清潔にすること、爪を短く切ることなどご協力をお願いいたします。

頭ジラミにご注意を

プールに入ったり、スイミングに行ったりする機会が増えるこの時期、シラミが移りやすい時期でもあります。一度移ると専門のシャンプーで１ヶ月はシャンプーをし、ご家庭の枕カバーやシーツも毎日洗濯をしないとなかなか撃退できません。プールやスイミングに行った時は、念入りにシャンプーをして移らないよう気を付けましょう。



５歳児保護者の方へ

●棚尾小学校のプールに行きます。

日時　　７月２８日（金）
　　８月　２日（水）
　　８月　８日（火）予備日

小学校プールに行く日は、９時までに必ず登園してください。欠席される時も９時までに連絡をお願いします。

持ち物

① 女児　水着　　男児　海水パンツ
② 水泳帽子　　③プールカード
④ フェイスタオル（普通サイズのタオル）
⑤ ビーチバック　⑤の中に①～④を入れ持って来てください。
⑥ 水筒（ひも付きの物をお願いします）

※すべての物に名前を書いてください。

＜夏野菜が育ち始めました＞

年長児が大きなプランターに、茄子、枝豆キュウリ、トマトを作っています。

通用門横のフェンスの所にプランターが並んでいますので登降園時にご覧ください。

収穫した野菜は年長児が順番に家に持ち帰りますので、ご家庭の食材にお使いください。また、給食材料にも使用して子ども達が喜んで食べられるようにもしています。

年中・年少さんも興味を持ち、年長児が忙しい時など張り切って水かけの手伝いをしてくれています。

１回目の収穫は６月２０日に茄子２個とピーマン４個を収穫しました。沢山の野菜が収穫できるよう子ども達と楽しみながら世話をしていきたいと思います。

≪夏の健康について≫

夏の暑い時期は、食欲不振や睡眠不足になりがちで体調を壊しやすい季節です。プール遊びも始まり体力も消耗します。元気に夏をのりきるために次のことに気を付けましょう。

〇汗を拭く　〇早寝早起きをする　〇休息をとる　〇炎天下で長時間遊ばない
〇冷たい物を飲みすぎない

※大人主体ではなく、子ども主体の生活リズムをつくってあげましょう。